

2025年12月期 第1四半期 決算補足説明資料

2025年5月12日
株式会社ナカニシ

免責事項

資料に記載されている情報には、将来の業績に関する見通しが含まれています。これら見通しには不確定要素が含まれており、将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は、世界経済の変化や為替相場の変動等により、予想数値とは異なる場合があります。予めご了承下さい。

© 2025 NAKANISHI INC.

執行役員CFOの鈴木です。
カンファレンスコールにご参加くださり、ありがとうございます。
早速ですが、決算ブリーフィングを開始いたします。

歯科事業

Dental Business

補綴歯科治療・歯周病治療・インプラント治療・訪問歯科診療など、広範な歯科治療をカバーする歯科治療機器の開発・製造・販売を行っています。



歯科用ハンドピース



インプラントモーター



超音波スケーラー



歯科用マイクロモーター

DCI事業

DCI Business

2023年に買収した米国デンタルチェアメーカーDCI社の業績を示すためにセグメントを新設。北米市場向けにデンタルチェアおよびデンタルパーツの開発・製造・販売を行っています。



デンタルチェア



デンタルキャビネット



デンタルパーツ

外科事業

Surgical Business

脳神経外科・脊椎脊髄外科・整形外科等の医療分野で使用される外科手術用の骨切削ドリルの開発・製造・販売を行っています。



コンソール



サージカルモーター



アタッチメント



ディスプレイザブル (バー)

機工事業

Industrial Business

自動車・精密部品等、幅広い製造分野の微細・精密加工で使用するモータースピンドルの開発・製造・販売を行っています。



コントローラー&スピンドル



スピンドル



電動ハンドグラインダー



超音波カッター

売上高は過去最高となった前年同期水準を維持。為替影響はほぼ無し。
外科事業は二桁増収、歯科事業・DCI事業は横ばい、機工事業は減収。

IDS 2025出展や、米国の営業強化、外科事業の体制強化等の成長投資による販管費増加は期初計画通り。EBITDAは前年比減益となるも計画過達。

期末に円高進行し為替差損を計上。加えて国税庁からの指摘で合算課税に係る過年度法人税等を計上した結果、純利益は大幅減。業績予想を修正。

※ FY2024Q2決算時にリファインのPPAが完了したため、本資料掲載の前年同期(FY2024Q1)の実績値は遡及修正しています

業績ハイライトです。

トップラインは業績計画通りに推移しまして、想定外のものはほぼありませんでした。
為替・M&Aの影響もほぼありませんでした。

外科事業は15%の増収と引き続き強く、歯科事業・DCI事業は横ばいでした。
歯科事業は地域別に強弱がありましたので後ほど説明いたします。
機工事業は減収となりました。ナカニシブランドは底打ち感が見えてきましたが、
再建中のイエガーが引き続き軟調でした。

EBITDAは前年に比べ落ち込みましたが、業績予算に対しては10億円ほど上振れました。
これは未実現利益の影響で8億円ほど粗利が改善したことによるものです。

当期は世界最大の歯科展示会「IDS2025」への出展、北米（NSKアメリカ・DCI）の
営業強化、外科への成長投資を進めており、拠出した費用は計画線で推移しています。
これら成長投資の効果は足元で見え始めています。

3つ目のポイントとして、四半期末に円高となり為替差損を計上したこと、そして国税庁
による税務調査により合算課税に係る過年度法人税を計上したため、四半期純利益が
大幅に減少しました。

これに伴い当期業績予想を修正しております。事業動向は計画通りに推移しており、
売上高から経常利益までは修正しておらず、当期純利益のみ修正しました。

百万円

	当期実績 2025/03	前年同期 2024/03	前年同期比	
			増減額	増減率
売 上 高	18,542	18,159	+382	+2.1%
売上総利益	11,076	10,972	+104	+1.0%
利益率	59.7%	60.4%	-0.7pt	-
EBITDA *	4,755	5,287	-531	-10.1%
マージン	25.6%	29.1%	-3.5pt	-
営 業 利 益	3,361	3,988	-626	-15.7%
利益率	18.1%	22.0%	-3.8pt	-
経 常 利 益	2,626	5,043	-2,417	-47.9%
利益率	14.2%	27.8%	-13.6pt	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	440	3,339	-2,899	-86.8%
利益率	2.4%	18.4%	-16.0pt	-
E P S	5.23	39.24	-	-
(円)				
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額				
為替レート				
- 米ドル (円)	152.95	147.87	+5.08	-
- ユーロ (円)	160.74	160.90	-0.16	-

・ 為替影響額：売上高 +178百万円（前年同期比） +626百万円（予想レート比）

© 2025 NAKANISHI INC.

4

ここでは当社全体の数字を説明いたします。

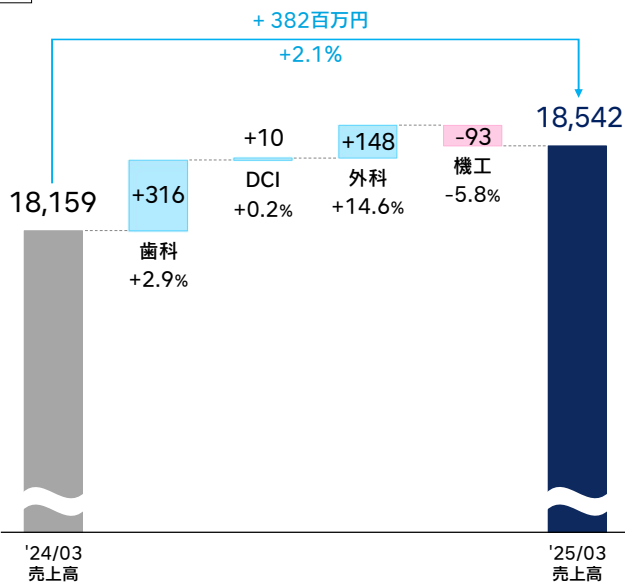
トップラインはほぼ前年並みとなりました。また、EBITDAは前年に比べ5億円ほど減少しましたが、業績予想に対しては10億円ほど過達となりました。

営業利益以下では、前年同期には為替差益7億円ほど計上していましたが、当期は一転して為替差損10億円を計上しました。3月末の為替レートが円高にシフトしたためです。

また、通常の法人税に加えて、先ほどご説明した過年度法人税12億円を計上したことで、四半期利益が4億4000万円になりました。

為替影響として売上高が1億7800万円プラスに効いていますが、このほとんどはDCI事業のものであり、歯科事業ではほぼありませんでした。

百万円



	前年同期 2024/03 A	当期実績 2025/03 B	うち、為替影響額	増減率 B/A-1
歯科事業	11,007	11,323	+5	+2.9%
DCI事業	4,536	4,547	+151	+0.2%
外科事業	1,015	1,164	+8	+14.6%
機工事業	1,600	1,507	+13	-5.8%
合 計	18,159	18,542	+178	+2.1%

© 2025 NAKANISHI INC.

5

事業セグメント別の売上高の状況です。

歯科事業は次のページで詳しく説明いたしますので割愛します。

DCI事業は前年比でフラットでしたが、為替影響がプラスに効いていたため、オーガニック成長はマイナス3%でした。
業績予想に対してはプラス4%、ほぼ計画通りに推移しています。

DCIの売上の約1/4を占める大型DSO向けの販売が弱くなりました。

DCI事業の状況について少し触れておきます。
DCI事業は、米国オレゴンにあるDCI社が北米でデンタルチェアを製造・販売する事業体です。2025年度から新たに米国の有力ディーラーであるパターソン社との取引を開始しました。

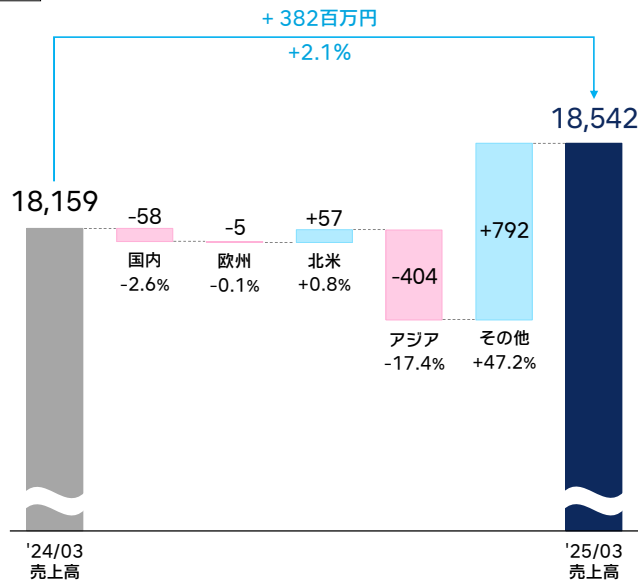
Q1はパターソン社との取引開始にあたり営業担当者への製品トレーニングを行うなど費用先行した局面でした。Q2に入ってパターソン社から受注が入り、想定よりも強く、立ち上がりは順調です。

また、DCI社はパターソン社のTier1サプライヤーに認定されました。DCI製品を販売した営業担当者へのインセンティブが改善され、販売促進につながるものと期待しています。

外科事業は引き続き好調で、前年同期に比べ二桁増収となりました。

機工事業は前年同期に比べ9300万円の減収となりました。
ナカニシブランドは1億円の増収、イエガーブランドは2億円の減収という内訳です。
市況感には底打ち感が出てきていると捉えています。

百万円



	前年同期 2024/03 A	当期実績 2025/03 B	うち、為替影響額	増減率 B/A-1
国 内	2,226	2,168	-	-2.6%
欧 州	4,939	4,934	+19	-0.1%
北 米	6,994	7,052	+236	+0.8%
ア ジ ア	2,319	1,915	-18	-17.4%
そ の 他	1,679	2,471	-57	+47.2%
合 計	18,159	18,542	+178	+2.1%

© 2025 NAKANISHI INC.

6

地域別売上高を見ると、2つのレイヤーがあります。
大きく変動した新興国マーケット（アジア・その他地域）と、ほぼ変動なかった先進国マーケットです。

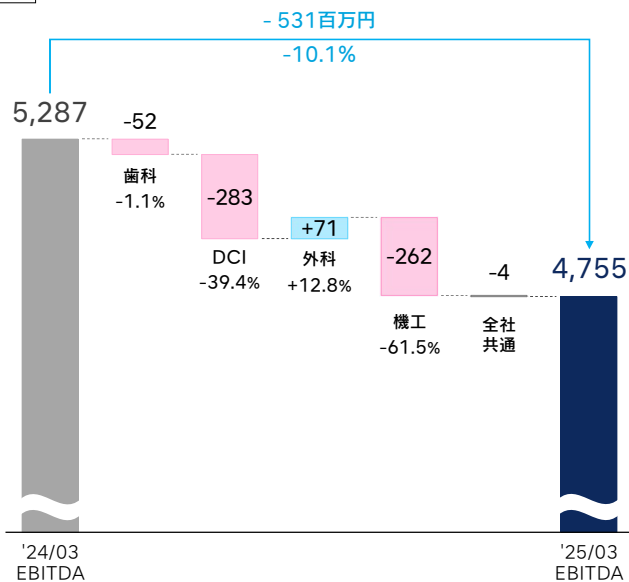
まず大きく変動した新興国マーケットを見ると、アジアが落ち込んでいますが、これは中国販売の落ち込みによるものです。残念ながら中国市場は底打ちの兆しが見えていない状況です。

一方、その他地域は大幅増収となりました。南米およびロシアが貢献しました。

次に、あまり変動していないように見える先進国マーケットでは、北米および国内はOEM販売が伸長し、自社ブランド販売は弱くなっていました。北米ではマーケットシェアを維持しており、セルアウト（代理店から歯科医院等E/Uへの販売）は堅調でしたので、自社ブランド販売が弱かったのはディーラーの在庫調整ではないかと捉えています。

国内は流通再編の影響が出始めており、一部の卸業者が在庫削減するなど、弱含みの状況がありました。

百万円



	前年同期 2024/03 A	当期実績 2025/03 B	増減率 B/A-1
歯科事業	4,784	4,731	-1.1%
DCI事業	720	436	-39.4%
外科事業	559	631	+12.8%
機工事業	426	164	-61.5%
全社共通	-1,203	-1,208	-
合 計	5,287	4,755	-10.1%

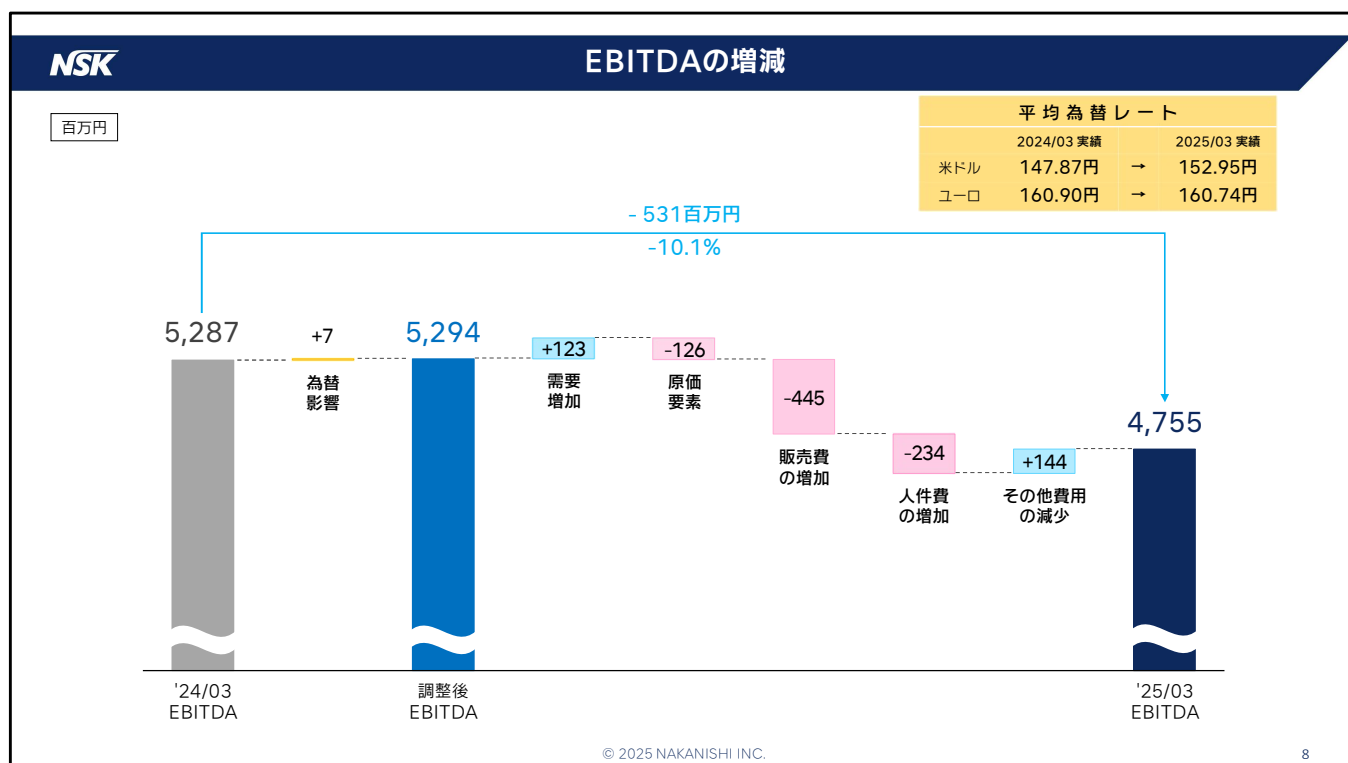
為替影響額（前年同期比） +7百万円 (+0.1%)

© 2025 NAKANISHI INC.

7

事業セグメント別のEBITDAをみると、DCI事業のEBITDAが落ちています。DCI社単体の業績としては、EBITDAマージン10%ほどと黒字を確保しています。先ほど説明しましたとおりQ1は費用先行していますが、EBITDAを確保しつつ費用もコントロールされており、計画とおりに推移しています。

機工事業のEBITDAの落ち込みはイエガーによるものです。



EBITDAの要素別の増減をみると、計画通りのものと計画外・想定外のものが混在しています。

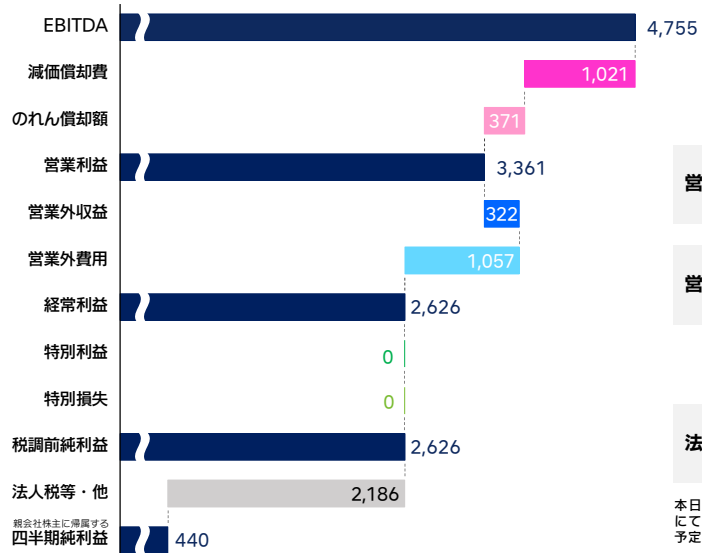
販売費・人件費の増加は計画とおりに推移しました。歯科展示会IDS2025出展費用、DCIの営業強化・外科の体制強化等がこれに当たります。

一方、計画外・想定外となりましたのは、原価要素です。前年同期は工場稼働率が高く、仕掛調整（期初仕掛品と期末仕掛品の合算値）によって売上原価が圧縮されていましたが、今年はそれがなくなる想定、売上原価は圧縮されず、売上総利益が減少される想定としていました。

当期実績としては、仕掛調整の影響はたしかに無くなったのですが、代わりに未実現利益が圧縮され、8億円ほど売上総利益が押し上げられました。その結果資料中の「需要増加」「原価要素」の合算値の金額がゼロに近づいた要因です。

このほか、予定していた研究開発費が発生せず1億7000万円ほど費用圧縮されました。この2つを合わせた約10億円が業績予想（計画）により上振れた要因となります。

百万円



営業外収益	・受取利息	金額
		226

営業外費用	・支払利息 ・為替差損	金額
		35
		1,011

法人税等	・法人税・住民税・事業税 ・過年度法人税等	金額
		838
		1,200

本日公表の「過年度法人税等の計上および業績予想の修正に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、税務調査での指摘事項に基づき修正申告を行う予定であり、過年度法人税等としての見積金額 1,200百万円を計上しました

EBITDAから純利益までの状況です。

業績ハイライトで説明しましたとおり、
為替差損で10億円、過年度法人税等で12億円が利益マイナス要素となりました。

百万円

	当 期 末 2025/03	前 期 末 2024/12	増減額	主な増減内容	
総資産	151,834	158,299	-6,465	・ 機械装置及び運搬具 ・ 工具、器具及び備品	+147 +97
- 現金及び預金	43,830	46,051	-2,220		
- 棚卸資産	24,976	25,024	-47	・ 商品及び製品 ・ 仕掛品	+16 -41
- のれん	19,864	21,389	-1,525	・ 原材料及び貯蔵品	-22
負債	36,802	37,100	-297	・ 買掛金 ・ 流動負債その他	-39 -1,652
- 有利子負債	20,273	18,728	+1,545	・ 1年内返済長期借入金 ・ 長期借入金	+700 +865
純資産	115,031	121,199	-6,167	・ 自己株式 ・ 為替換算調整勘定	-1,303 -2,795
- 利益剰余金	114,837	116,593	-1,755		
自己資本当期純利益率 (ROE)	1.5%	7.3%	-5.8pt		
総資産経常利益率 (ROA)	6.8%	11.6%	-4.8pt		
	当期実績 2025/03	前年同期 2024/03	増減額		
設備投資額	1,031	1,704	-673		
減価償却費	1,021	915	+106		

© 2025 NAKANISHI INC.

10

貸借対照表におけるポイントは2つあります。

1つ目は棚卸資産の減少です。ここ3年ほど増加していましたが、当期はそれが反転し、減少に転じました。在庫回転期間を見ても、前年の12.9ヶ月から現在は11.7ヶ月となりました。まだターゲットとしている期間には届いていませんが、在庫削減・適正化をすすめていきます。

2つ目は設備投資金額が一服したことです。前年17億円から当期10億円に減少しました。これは新工場 M1がほぼ完成したことによるものです。外構工事が一部残っていますが、金額は限定的です。

2025年12月期 連結業績予想

5/12公表 業績予想の修正

2025年2月12日 当初の業績予想

- 売上高は前期比+5%成長。為替影響（円高シフトで年間▲32億円）を控除した実質的な成長率は+9%となる。歯科・DCI・外科・機工のすべての事業で売上アップを目指す計画。
- 売上成長により利益も増加する局面だが、成長ドライバーである米国事業（NSK・DCI）および外科事業の成長投資について時機を逃さず推進すべく販管費を意図的に積み増し。これによりEBITDAおよび各利益は減益となる計画とした。
- 円安傾向は反転し、緩やかに円高にシフトする想定で為替レートを設定。全般的な収益性低下、前期まで計上していた為替差益の剥落を織り込む。

2025年5月12日 業績予想の修正

- 上記「当初の業績予想」に加え、Q1に過年度法人税等12億円を計上したため、当期純利益を引き下げ

現時点で業績予想に未反映の要素

- 米国の関税政策は当社事業のリスク要因となるものの、先行き不透明な状況のため現時点では未反映

© 2025 NAKANISHI INC.

12

連結業績予想を修正しました。過年度法人税等の計上により、純利益予想を下方修正しましたが、売上高から経常利益までの各利益は変更しておりません。

米国政府が打ち出してきた関税政策は当社の業績にも一定の影響を与える見込みですが、先行きが不透明なことから業績予想にはまだ織り込んでおりません。

百万円

		中間期予想:修正 2025/5/12公表	中間期予想:前回 2025/2/12公表	増減 増減額 増減率	前年同期実績 2024/06
売上高		38,616	38,616	+0 -	38,557
売上総利益		21,452	21,452	+0 -	22,863
	利益率	55.6%	55.6%	- -	59.3%
EBITDA*		8,368	8,368	+0 -	11,051
	マージン	21.7%	21.7%	- -	28.7%
営業利益		5,478	5,478	+0 -	8,287
	利益率	14.2%	14.2%	- -	21.5%
経常利益		5,854	5,854	+0 -	10,522
	利益率	15.2%	15.2%	- -	27.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益		2,727	3,927	-1,200 -30.6%	7,026
	利益率	7.1%	10.2%	-3.1pt -	18.2%
EPS	(円)	32.30	46.51	- -	82.88
為替レート					
- 米ドル	(円)	145.00	145.00	為替感応度: 年間売上高 242百万円	
- ユーロ	(円)	155.00	155.00	為替感応度: 年間売上高 98百万円	

売上高から経常利益までは変更なく、四半期純利益およびEPSを変更しています。

百万円

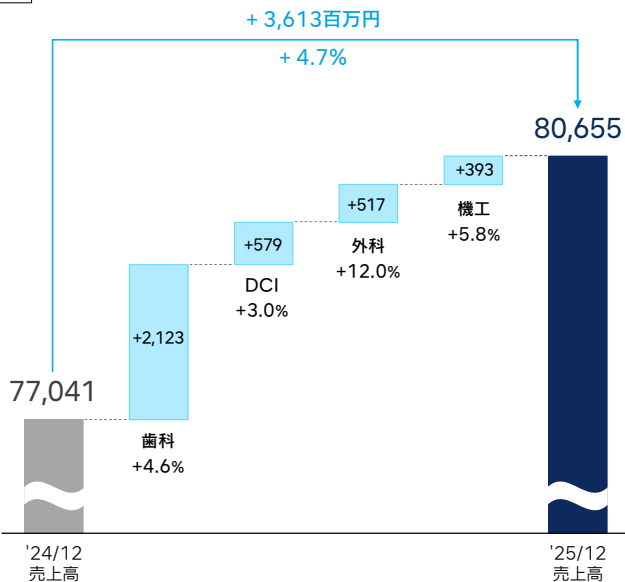
		通期予想:修正 2025/5/12公表	通期予想:前回 2025/2/12公表	増減 増減額	増減率	前期実績 2024/12
売上高		80,655	80,655	+0	—	77,041
売上総利益		44,784	44,784	+0	—	44,418
	利益率	55.5%	55.5%	-	—	57.7%
EBITDA*		18,932	18,932	+0	—	20,460
	マージン	23.5%	23.5%	-	—	26.6%
営業利益		13,150	13,150	+0	—	14,596
	利益率	16.3%	16.3%	-	—	18.9%
経常利益		13,840	13,840	+0	—	17,283
	利益率	17.2%	17.2%	-	—	22.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益		8,372	9,572	-1,200	-12.5%	8,577
	利益率	10.4%	11.9%	-1.5pt	—	11.1%
EPS	(円)	99.14	113.34	—	—	101.37
設備投資額		5,768	5,768	+0	—	5,335
減価償却費		4,365	4,365	+0	—	4,208
為替レート						
- 米ドル	(円)	145.00	145.00	為替感応度: 年間売上高 242百万円		
- ユーロ	(円)	155.00	155.00	為替感応度: 年間売上高 98百万円		

© 2025 NAKANISHI INC.

14

売上高から経常利益までは変更なく、当期純利益およびEPSを変更しています。

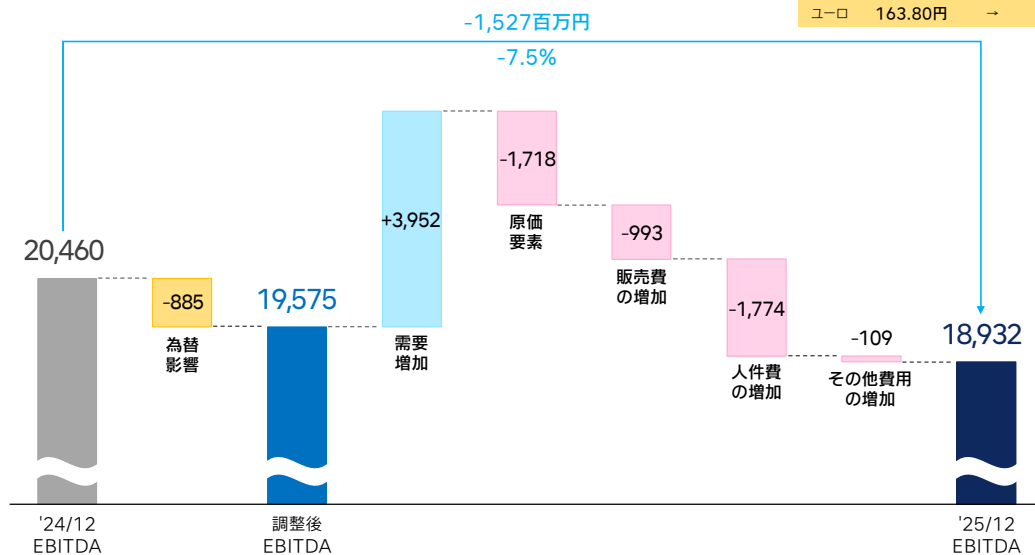
百万円



	前期実績 2024/12	当期予想 2025/12	増減
歯科事業	46,527	48,650	+4.6%
DCI事業	19,454	20,034	+3.0%
外科事業	4,321	4,839	+12.0%
機工事業	6,738	7,131	+5.8%
合 計	77,041	80,655	+4.7%
為替影響額（前期比）		-3,241百万円	(-4.2%)

百万円

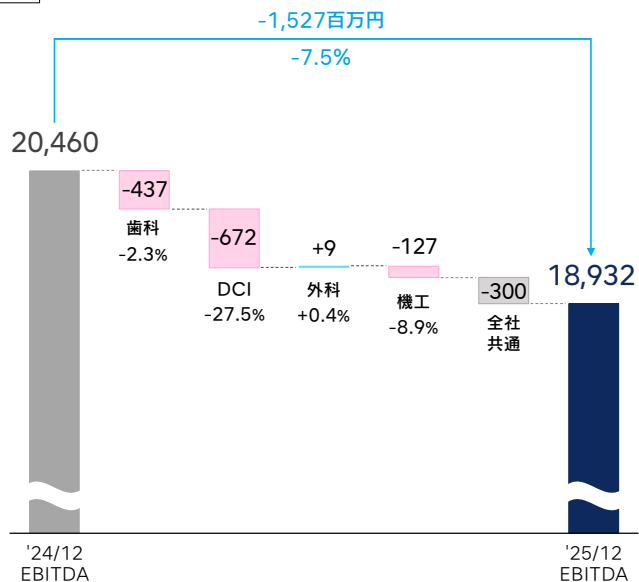
平均為替レート			
	2024/12実績		2025/12予想
米ドル	151.44円	→	145.00円
ユーロ	163.80円	→	155.00円



© 2025 NAKANISHI INC.

16

百万円



	前期実績 2024/12	当期予想 2025/12	増減
歯科事業	19,337	18,900	-2.3%
DCI事業	2,444	1,772	-27.5%
外科事業	2,379	2,388	+0.4%
機工事業	1,434	1,306	-8.9%
全社共通	-5,135	-5,436	-
合 計	20,460	18,932	-7.5%
為替影響額 (前期比)		-885百万円	(-4.3%)

米国関税政策の影響

5/12公表 業績予想修正には未反映

© 2025 NAKANISHI INC.

18

最後に米国政府による関税政策の影響を説明いたします。

**米国の関税引き上げは当社事業に一定の影響を及ぼす見込みだが
現時点で当期業績に与える直接的・間接的影響を見通せておらず
2025年12月期連結業績予想(5/12修正)には織り込んでいない**

	歯科事業	DCI事業	外科事業	機工事業
想定される 直接的影響	・米国で販売する歯科製品はほぼ全て本社で生産し米国に輸出しているため、関税が付与される見通し ・日本からの輸入品には既に関税10%が適用中 ・日本の相互関税24%が適用される見込みも、現在停止中	・デンタルチェアの構成部品の一部を中国から輸入しており、特に高い関税が付与される見通し ・中国からの輸入品には既に関税145%が適用中 ・その他の地域からの輸入品の一部に関税10%が適用中	・米国で販売する外科製品はほぼ全て本社で生産し米国に輸出しているため、関税が付与される見通し ・日本からの輸入品には既に関税10%が適用中 ・日本の相互関税24%が適用される見込みも、現在停止中	・米国で販売する機工製品は日本およびドイツで生産し米国に輸出しているため、関税が付与される見通し ・日本・ドイツからの輸入品には既に関税10%が適用中 ・日本の相互関税24%および欧州の相互関税20%が適用される見込みも、現在停止中
想定される 間接的影響	・主な競合他社も海外生産品であり競争条件に変化なし ・原価上昇リスクあり調達先変更等を含めた対策が必要 ・関税によるコスト上昇をどこまで価格転嫁できるのかは、競合他社の動向もふまえて検討・調整 ・米国内のインフレ加速や、これに伴う景況感の悪化等により、製品需要が減退していく懸念あり			

© 2025 NAKANISHI INC.

19

当社は4つの事業領域があり、それぞれの事業で米国関税の影響が変わってきます。

歯科事業：

国内で生産した歯科用ハンドピースを米国で販売していますが、競合となる主な企業もそれぞれ海外産を米国に持ち込んでおり競争条件に変化は出ないだろうと考えています。

関税によって増えたコストをどこまで価格転嫁するのか、製品の値上げは需要にも影響しますが、一方で歯科用ハンドピースは半消耗品でありディフェンシブな要素を含んでいます。

外科事業：

歯科事業と同様に日本国内で生産した外科用ドリルを米国で販売しています。

主な競合他社はアメリカの会社であり、関税政策は競争上不利益をもたらします。

ただし、当社の外科製品は高い競争優位性を持っており、これが外科事業の非常に高い収益性を実現しています。値上げする余力も十分ありますので、市場競争で負けていくことは想定していません。まだ十分に戦っていけると考えています。

機工事業：

非常にニッチなマーケット、個別ニーズに対応した製品が多いため、値上げをしやすい事業体ですので関税の影響は限定的と想定しています。歯科事業・外科事業との違いは、生産拠点が日本のほかにドイツにもあるということです。

DCI事業：

DCI社は米国にありますが、デンタルチェアの部品の一部を中国から輸入していますので関税政策の影響が直接でてきます。米国政府は中国からの輸入品に高い税率をかけていますので、DCI事業では価格転嫁のみならず調達先の変更も含めた総合的な対策が必要になると考えております。需要動向や競合他社の動向、一時的な需要減退などにも留意しながら対策を進めていく必要があります。

以上です。

